

平成22年6月定例会市議会

提 案 説 明 要 旨

総 社 市

## 先議案件（議案第42号）の提案説明

本日、6月定例会市議会を招集しましたところ、議員の皆様にはお繰り合わせ御出席いただき、誠にありがとうございます。日ごろより市議会をはじめ、市民の皆様には市政の推進に格別の御協力を賜っておりますこと、重ねて厚くお礼申し上げます。

それでは、ただいま上程されました議案第42号について御説明申し上げます。

本議案は、昭和中学校耐震補強工事の工事請負契約締結につきまして、予定価格が1億5千万円以上であるため市議会の議決を得ようとするものでございます。

本工事に係る入札は、去る5月31日に執り行いました。補強工事は、安全を考慮し、生徒が夏休みとなる7月から8月にかけて主要部分を施工する予定としており、そのため準備期間を考慮し早期着手したいので、先議をお願いしているものでございます。

引き続きまして、担当部長から説明を申し上げますので、十分御審議をいただきまして、適切な御議決を賜りますようお願い申し上げます。提案説明とさせていただきます。

## 一括上程後の提案説明

引き続きまして、上程いただきました諸議案について御説明いたします。

平成22年度は、実施事業の優先順位の明確化、内容や手法の再点検など、工夫を凝らし緊縮型財政で乗り越えていくこととし、厳しい財政状況だからこそ市民と行政の距離を近いものとし、共に考え、共に実行し、私の目指す「自立できる総社市」の実現に繋がる気運を醸成します。

まず1点目としまして、懸案事項でありました「指定ごみ袋料金の見直し」について説明いたします。

私は、ごみ袋料金を見直すという公約を掲げておりましたが、CO<sub>2</sub>削減、環境問題を偏重するがあまり、ごみ袋が、現下の低迷する景気のなかで苦しんでいる市民の家計を圧迫していると私は判断しました。

そこで、ごみ袋料金を半額に改正する議案を今議会に提案いたしました。

決断の背景には、平成18年4月のごみ収集有料化以降、家庭ごみ排出量は、平成17年度対比で平成20年度が21.4%、平成21年度が21.0%の削減となっており、平成17年度対比20%削減という目標を2年連続で達成したこと、リサイクルの推進という実行、市民の皆さまの環境問題に対する意識向上という成果があります。また、一般廃棄物最終処分場の早期建設、広告収入の確保、広域環境施設組合の行財政改革への取組みによる今後の財政面での要因もあります。

一方で、ごみ袋料金を値下げすることで、家庭ごみの排出量が増加するようなことがあってはなりません。そこで、「値下げしても、ごみ排出量は増やさない。」という契約を市民と交わし、ごみ減量化を共に考え、共に実行する総社モデルといえる防止策を講じていこうと考えています。具体的な対策として、ごみの排出量が増加するようであれば3年ごとに見直すという「ごみ袋変動相場制」、マイバック運動を推進し値下げの日から合言葉を「毎日がノーレジ袋デー」とすること、(仮称)ごみ減応援隊の結成など、総社市廃棄物減量等推進審議会から答申を受けた6項目の防止策を基に、ごみ減量化に対する市民意識高揚を図ることを検討してまいります。

次に２点目としまして「中学３年生までの入院費無料化」について説明いたします。

医療費給付対象者の対象年齢を拡大し、平成２２年１０月１日以降、中学３年生まで入院に係る費用を無料とする内容の一部改正条例案を提案しております。子育て王国そうじゃを標榜する総社市として、安心して子育てをできる環境づくりには積極的に取り組む所存でございます。

また、子育てに関する事業としまして、三宅内科小児科医院の御協力をいただき、病気の子どもを預かる病児保育室「ほっとチュッピー」の開設、子育て支援、親子の交流の拠点として岡山県立大学内に育児支援拠点「県大そうじゃ子育てカレッジ」も開設しました。引き続き、市全体で子育てを支え、「子育て王国そうじゃ」の実現を目指してまいります。

次に３点としまして、平成２２年度総社市一般会計補正予算案の概要を説明いたします。

今回の補正予算における主な事業は、清音古地地区のテレビ難視対策に関するもの、デマンド型乗合タクシーの導入検討に向けた課

題等の調査・分析等に関するもの，多文化共生社会の基盤づくりの推進を図るための日本語教室事業に関するもの，観光プロジェクトの提案事業の実施に関するものなどで，これらに要する経費を計上しております。平成22年度は緊縮型財政と位置付けており，事業の優先順位や必要性を考慮した1300万円増の補正措置として提案させていただきます。

このうち，デマンド型乗合タクシーに関しましては，議会として新交通システム調査特別委員会のなかで研究していただき，知恵を拝借し，総社市に相応しい交通システムを構築してまいりたいと思います。

次に，観光プロジェクトに関する事業につきまして説明させていただきます。

平成20年5月に総社観光プロジェクト会議を発足し，2年間議論を重ね，その結果となる「総社観光プロジェクト報告書」を，3月30日に浅沼唯明会長から受け取りました。この報告書では8つの分科会から具体的な24事業の提案をいただいております。今後の総社市の観光のあり方について，バイブル的な1冊であると受けとめています。また，4月20日には，この報告書に基づき市の観光振

興を進める「総社観光プロジェクト実行委員会」を発足しているところでございます。今後は、この報告書に基づき、様々な工夫を凝らし、「総社オリジナリティー」を創造し、総社市の魅力を全国に発信するため、着々と形づくることが私に与えられた使命と受けとめています。

22年度は、報告書の提言のうち「デザインの統一化」、「エコ・健康の視点からの観光スタイル」を最優先と考え、事業を実施する予定としています。

観光プロジェクトが定める総社観光のキャッチフレーズ「歴史ロマンのパワースポット」と定義付けできそうな名所・旧跡が、市内には数多く存在しており、そのなかには、総社市の名前の由来となった総社宮も含まれています。今回は、この総社宮から総社商店街地区をモデル地区とし、総社デザインといえるまちの一体感を醸成し、総社市をPRしたいと考えています。

秋には、国民文化祭、市民憲章運動推進第45回全国大会が総社市で開催され、また、「れとろ一ど」も開催されていることから、市民をはじめ多くの来訪者にタイムリーにアピールできると考えています。

次に、現在進めている事業につきまして御報告をさせていただきます。

まず、不登校対策研修会の開催について説明いたします。

総社市における平成20年度の不登校の割合を示す不登校出現率は、小学校0.35%(全国平均0.32%)、中学校3.19%(全国平均2.89%)で全国平均に比べ、やや高い状況にあり、本市の喫緊の課題となっています。そこで、学校不適應の未然防止のため、「総社方式」といえるプログラムを導入した不登校対策研修会を開催し、「だれもが行きたくなる学校づくり」を、市内の全ての小中学校で進めます。この研修は、広島大学の栗原慎二(くりはら しんじ)教授らの研究グループとともに、22年度から24年度までの3年間で不登校出現率の半減を目指し、市内の全教職員に研修を行うもので、学校、行政、大学が一体となり市内全ての学校で取組むものとしては全国初です。

子育て王国そうじゃの実現のため、学校はもちろん、地域ぐるみで温かい人間関係のある学校づくりを進めてまいります。

次に、総社新医療体系の4本目の柱である第2次、第3次救急医

療機関への救急搬送体制の充実について報告いたします。

救急搬送体制を強化するため、6月1日から新たに高規格救急車1台を配備し、消防署本署に3台、西・昭和出張所に各1台の計5台となり、当初から私の公約であった5台体制を実現することとなりました。新たに導入した高規格救急車は、救急隊員が迅速かつ的確に傷病者の観察と救命処置ができるよう、最新の患者監視モニター、自動人工呼吸器、防振ベッドなどを装備しています。また、救急救命士は現在22名いますが、救命率の向上のため、22年度末で25名を目標に養成を進めてまいります。

今後も総社新医療体系の4本の柱を、より太く、より盤石な「形」へ整えてまいります。

次に、「ご当地ナンバープレート」について報告いたします。

現在、市民の皆さまに、岡山県立大学デザイン学部の学生が制作した、3つのプレートデザインについて投票をお願いしています。デザインは、雪舟が宝福寺の床に涙で書いたという逸話にちなんだネズミ、備中国分寺の五重塔という総社市を代表するものをモチーフとし、どれも総社市の魅力を表現できたものとなっています。ご当地ナンバープレートは、岡山県内では初めての取り組みです。この

独自プレートを通じ、総社市の魅力を全国に発信し、地元愛という形で深まっていくことを願い、更には、多くの方が総社市へ移って来られ、バイクの登録をしてくださることにも期待しております。

投票期限は6月11日までで、投票に年齢制限は設けておりません。投票がまだという方は、是非とも投票いただき、総社市を誇れる1品を選ぶ事業に御参加願います。

次に、環境と安全安心に関する事業について3点報告いたします。

まず1点目としまして、5月11日に総社小学校の5年生を対象として、電気自動車アイミーブの試乗を通じた環境学習を実施しました。この学習会には、三菱自動車の益子修社長を環境の学びの講師としてお招きし、「地球の環境を守るため、電気自動車が多く走れるよう応援してほしい。」とメッセージを伝えられました。今後も市内の小学生を対象にした試乗会と環境学習を実施してまいります。

次に2点目ですが、先日、上原地区に住民や子どもの安全確保のため、太陽光発電式LED防犯灯5基を設置しました。三輪地区にも既に5基設置しており、通学路への設置としては県下初となります。環境にやさしく地域の安全安心にも繋がることから、今年度設置を予定している残り10基についても順次設置してまいります。最後

に3点目としまして、今年も庁舎南側を「緑のカーテン」で覆うためゴーヤの植え付けが完了しました。

引き続き、地域の安全安心の確保、地球温暖化対策の推進に努めてまいります。

次に、東公民館阿曾分館の移転新築工事について報告いたします。

かねてから工事を進めておりました阿曾分館の竣工式が、6月2日に執り行われたところでございます。地元の皆さまが心待ちにされていた新分館が完成したことにより、当施設を拠点に様々な公民館活動が行われ、阿曾地区の皆さまの結びつきがより深いものとなり、地域の活性化につながることを大いに期待するものでございます。

次に、企業誘致に関して報告いたします。

本年1月20日付けで、株式会社紀文食品から岡山総社工場東側社有地の一部を売却したい旨の申し出があり、総社市として、この土地へ全力で優良企業を誘致する協力をしてまいりました。その結果、岡山県貨物運送株式会社が、この土地を取得されることとなり両企業で売買契約が整いました。今後は、岡山県貨物運送株式会社

と総社市で立地協定を締結する予定としており、同社の立地が総社市にとって、地域の活性化、雇用・税収面など多くのことに貢献されるものと期待しています。

最後に、この度、総社市の特産品である白いさつまいも「きびみどり」がお菓子となって発売されました。このお菓子は、「きびみどり」の栽培を推進している総社市新規作物導入推進協議会が菓子業者と共同で開発したもので、ショコラクランチ、ムーンケーキ、芋あんのお餅の3種類が、土産物としてJR岡山駅から全国へ販売されています。この取組みは、総社市の農業に元気を与え、総社市の農業を全国にアピールできるものとして期待しています。また、農業ということに関しましては、私が理事長を務める、農業公社きびの里の「こども農園」が開園しました。この農園が親子の交流の場となることはもちろん、野菜や果物を作ることにより、自然を感じ、農業の楽しさ、難しさを体感し、総社っ子の子育てに役立つものになればと期待しています。

引き続き、市民ニーズを的確に把握し、中長期的な展望に立ち大胆な選択と集中を行い、その一方で将来的な効果も視野に入れ、バ

ランス感覚を重視した事業実施をしてまいります。市民の皆さまが安心して豊かに暮らせるよう、様々な形で、皆さまの真意に応えられるよう熱意、誠意、創意をもって、「自立できる総社市」の実現を目指し取組んでまいります。

次に、平成21年度の決算見込みについて御説明させていただきます。

平成18年に策定いたしました第一次行政改革大綱に基づき、事務事業の見直し、人件費の削減などの行財政改革に積極的に取組み、徹底した歳出削減を図るとともに、歳入面においては、新たな財源の確保に向けて、企業誘致へ取り組むなど、引き続き歳入歳出の両面にわたって財政健全化に努めてきたところでございます。

しかし、世界的な経済危機などによる歳入不足を補うため、財政調整基金等からの繰入れも行いながらの財政運営となっております。

結果として、平成21年度においては、一般会計の実質収支が4億2千万円の黒字、特別会計を合わせまして7億5千万円程度の黒字となる見込みでございますが、財政調整基金等の主要5基金の残高は、決算ベースで約30億円となる見込みであり、どうにか目標としていた残高に近い額を確保できたものの、依然として、本市を

取り巻く財政状況は厳しいものがあります。

平成22年度から26年度の期間を対象に策定した第2次総社市行政改革大綱に基づき、引き続き財政健全化に取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後とも御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に「雨期に向けての防災体制」についてでございます。

まもなく梅雨に入り、梅雨前線による長雨や大雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。自然災害は突如として発生し、時として甚大な被害を及ぼすものであり、その脅威は想像を越えるものでございます。しかし、防災体制しだいで人的被害を未然に防ぐこと、あるいは2次災害を最小限に抑えることは可能であろうと思います。市内の災害発生の恐れのある箇所につきまして、先日、現地調査を行い、その調査結果を踏まえ、万一の際の非常体制等につきまして、災害対策本部会議で協議、確認したところでございます。

昨日6月6日には消防団等の参加による水防訓練を実施し、災害時における水防工法、県の消防防災ヘリコプター「きび」による中洲救助の演習も行ったところであります。また、もまもなく完成いたします常盤公園は、普段は市民の皆さまの憩いの場として御利用いただき、有事の

際には災害対策の拠点となるという二面性を兼ね備えたものとなっています。秋には、この常盤公園で防災訓練を実施する予定としております。

こうした災害への備えを通じ、「自助」、「共助」、「公助」が一体となり、災害時の被害を最小化するための「減災」に取組み、市民の皆さまと共に備えを万全としていくことが、市民生活の安全・安心を確保するばかりでなく、まちへの信頼感に繋がるものと思います。

さて、今議会に提案いたしております議案は、先ほど先議案件としたものを除き、

報告に関するもの	3件
承認に関するもの	4件
条例の一部改正に関するもの	4件
平成22年度補正予算に関するもの	1件
その他のもの	3件

の計15件でございます。

なお、人事案件につきましては、後日上程されました際に提案理由の説明を申し上げることといたしますので、あらかじめ御了承願

います。

引き続きまして、担当部長から説明を申し上げますので、いずれの議案につきましても、十分御審議をいただきまして、適切な御議決を賜りますようお願い申し上げます、提案説明とさせていただきます。